

# 市制施行45周年 まちをつなぐバトン

昭和45年10月26日、埼玉県で28番目の市として幕をあけた志木市。今月26日は、市制施行45周年を迎える記念すべき日です。

初代市長によって発出された「志木市市制施行宣言」では、志木市の市制施行の目的を「地方自治の向上と住民福祉の増進にあり、同時によき伝統はこれを受けつぎ、受けつたえ、明るく住みよい文化的都市建設を期するものである」としています。

市制施行から45年。今月の特集では、これまでの市のあゆみを紹介し、志木市がどのように発展し、現在へ受けつがれてきたのかをお伝えします。



現在の市庁舎の建設を記念して、昭和47年6月に埼玉銀行（現埼玉りそな銀行）より寄贈されたモニュメント「空相」は、志木市が生んだ世界的な現代美術家、関根伸夫さんの作品です。石は、重さが20トンで、長さが5メートル、柱の高さは6.5メートルあります。

# 足立町から志木市へ

戦後25年の短い間だけでも、志紀町、宗岡村及び志木町、足立町、志木町と、幾度もその名称と組織を変えながら、ようやく昭和45年10月26日に誕生した志木市。市制施行の祝賀式典は、志木中学校体育館（現志木第三小学校体育館）で盛大に行われました。

## 志木市が誕生するまで

昭和30年に現在の本町、幸町、館、柏町地区である志木町と宗岡地区である宗岡村が合併して北足立郡足立町となりました。そして、昭和45年10月26日、町名をいったん志木町と変更したうえで、同日市へ昇格したことで、志木市は誕生しました。

足立町にとって、市制施行がにわかに現実味を帯びてきたのは、昭和43年5月のことです。この年、地方自治法の一部が改正され、それまで市の要件とされていた人口5万人以上の規定が、3万人以上に緩和されました。これは、2年間に限られた時限立法でしたが、足立町では、昭和30年の発足時には1万583人だった人口が、高度経済成長に伴って急増しており、2年以内に3万人を超えることがほぼ確実となっていました。実際に、昭和45年に、市制施行のために実施した人口調査では、人口が3万1千773人に達し、市制施行要件を満たすこととなり、志木市は誕生しました。

## 新市名の選定

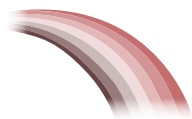
「志木市」という市名は、昭和45年6月に開催された、第1回市制準備委員会で、満場一致で決定されたものです。

「志木」という地名が生まれたのは、市制施行から約80年さかのぼって、明治22年の町制施行時のことです。この地方が昔、新座郡とも志楽木郡ともいわれていたことに因むもので、この意味で歴史的にも由緒ある地名であったのです。

## 市章決まる

市を象徴する市章には、足立町の前身である志木町のときに一般公募で採用されて以来、永い間親しまれてきたものが採用されました。志木市がますます四方に発展すると同時に、丸をあしらって調和のとれた発展を図案化したものです。





## 志木市スタート

### 公共施設がぞくぞくと開設！

市制のスタートにあたっては、祝賀式典が催され、市旗の披露などが行われる一方、式典にともなう行事などは経費節減の観点から抑えることとなりました。

市制施行から最初の10年間は、市役所の本庁舎新築をはじめ、第二保育所（現北美保育園）や宗岡第二小学校、志木第二中学校など公共インフラの整備に力が置かれました。また、昭和47年には「川をきれいにする運動推進協議会」が発足し、市民ぐるみの河川浄化活動がはじまりました。



▲白地に金糸でかたどった市旗の披露



◀ふれあい号が運行開始



▲開業後まもなくの柳瀬川駅

- 昭和45年 (1970)
  - 10月26日 志木市制施行
- 昭和47年 (1972)
  - 5月31日 志木市役所庁舎落成
- 昭和48年 (1973)
  - 4月1日 宗岡第二小学校、志木第二中学校が開校
- 昭和52年 (1977)
  - 9月15日 長野県南牧村に少年自然の家（現ハケ岳自然の家）が完成
- 昭和53年 (1978)
  - 5月1日 市民会館（ホール棟）が開設
- 昭和54年 (1979)
  - 9月28日 送迎用バス「ふれあい号」の運行開始
  - 11月8日 柳瀬川駅が開業

## 10周年パレードが盛大に

### 交通の利便性がアップ！

市制施行10周年の記念事業の一つとして行なわれた記念パレードには、約5万人の見物客が詰めかけました。

これ以降の10年間は、昭和60年には羽根倉橋の拡幅工事が完成し、県道浦和・所沢バイパス（現国道463号線）のすべてが4車線となったほか、昭和62年には東武東上線の和光市駅～志木駅間の複々線化、営団地下鉄有楽町線との相互乗り入れにより通勤・通学の利便性が高まるなど、都市機能発展の10年といえます。また、昭和61年には、「21しき市民会議」が発足し、市民とともにつくる市



▲記念事業として、パレードやミス志木コンテストが行われました



▲羽根倉橋の開通式が行われました

- 昭和55年 (1980)
  - 10月29日 市制施行10周年記念式典
- 昭和57年 (1982)
  - 9月1日 第1回志木市総合防災訓練を実施
- 昭和60年 (1985)
  - 4月5日 羽根倉橋が2車線から4車線化
- 昭和62年 (1987)
  - 8月25日 東武東上線と営団地下鉄有楽町線の相互乗り入れが実現

民参画への取組が緒につきました。



# 名物行事が生まれた20周年 せせらぎの小径が完成

市制施行20周年にあたる平成2年は、年間を通じてさまざまな記念事業が催されました。中でも新河岸川上空への鯉のぼりの掲揚や、花火大会はこれ以降、志木の名物となり、現在も続く行事となっています。

また、昭和63年度から、「ふるさと創生事業」の一つとして行われてきたせせらぎの小径の整備は、平成4年に一部が完成したのち、平成9年にはすべてが完成し、今なお志木市を代表する景観となっています。



▲60匹あまりの鯉のぼりが市民の寄附によって集まりました



▲市民がふれあい、語らい、憩い、散策できる  
せせらぎの小径

平成5年度  
彩の国景観賞  
受賞

- 平成2年 (1990)  
10月26日 市制施行20周年記念式典
- 平成4年 (1992)  
3月13日 柳瀬川図書館が開設
- 平成6年 (1994)  
4月1日 防災行政無線がスタート
- 平成9年 (1997)  
3月14日 せせらぎの小径が完成  
4月21日 いろは橋架け替え工事完成

## 30周年、市のイメージアップへ 志木の玄関口が整う

「ふるさとまつり創出部会」と「イメージづくり部会」から構成された志木市市制施行30周年記念事業市民実行委員会。市民のふれあいや地域育成を目的としたイベントや、幸町の西原大塚遺跡で発見された貴重な土器をイメージした銘菓の製作が行われました。

また、平成12年には、志木駅東口の再開発ビル「フォーシーズンズ志木」やペDESTリアンデッキが整備されたほか、平成20年には、志木駅東口駅前通りの整備が完成しました。市民活動の面では、平成13年には、第二の市役所ともいわれた「市民委員会」が発足し、

さらに15年には、市民公益活動団体に市民サービスを委託する行政パートナー制度がはじまり、市民参画から市民協働へと変遷を遂げました。

- 平成12年 (2000)  
2月24日 志木都市計画志木駅東口第一種市街地再開発事業竣工式  
10月26日 市制施行30周年記念式典
- 平成15年 (2003)  
4月1日 いろは遊学館が開設
- 平成20年 (2008)  
1月19日 志木駅東口駅前通りの拡幅整備完成

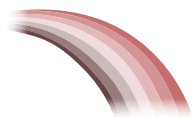
第6回  
チャレンジドカップ  
～夢のパン・菓子  
コンテスト～  
菓子部門  
大賞受賞



▲福祉作業所「NPO法人シンフォニー」で製造販売している「どき土器クッキー」



▲志木駅東口駅前通りの電線が地中化され、歩車道が分離されました



「出会い」・「にぎわい」・「再発見」をコンセプトに行われた市制施行40周年記念事業。健康・医療・福祉をテーマとしたリレーフォーラムなどが行われたほか、市内在住の彫刻家、内田榮信<sup>うちだ えいのぶ</sup>さんから、カッパ像「イロハガッパ喋喋喃喃」が寄贈されました。

## 40周年記念にカッパ像の寄贈 市民の健康をバツクアッパ！



▲カッパ像「イロハガッパ喋喋喃喃」(志木駅東口駅前広場)

- 平成22年 (2010)
  - 7月1日 健康増進センターが開設
  - 10月23日 市制施行40周年記念式典
- 平成26年 (2014)
  - 7月1日 地区まちづくり会議が発足
- 平成27年 (2015)
  - 5月17日 志木いろはウォークフェスタ2015  
ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会



▲ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会



▲オリジナルコミック  
付き観光ガイドブック  
(A4フルカラー、  
全36ページ)



▲4式ロボ。モチーフはカッパと市章。4ページ左下の市章と比べてみよう！

## 志木市の魅力の発信

### 住みたい、住み続けたいまち

これまでの45年間、志木市の人口は増加を続けており、昭和45年の約3万2千人から現在の約7万4千人となってもなお、増加を続けています。しかしながら、超高齢社会に突入し、人口減少が叫ばれる社会のなかにあつて、これからの志木市が活気あるまちとして持続していくためには、「志木市に住み続けたい、住んでみたい、訪れてみたい」と思う人を増やすことが大切です。

市では、そのための一つの方策として、今年7月に「オリジナルコミック付き観光ガイドブック」を発刊しました。十文字学園女子大学(新座市)の協力を得て作成し、市内の名所、旧跡やご当地グルメなどを紹介するとともに、全国でも類例のない、志木市を舞台としたオリジナルコミック「みらい式水輝 志木市のひみつ編」を収録しています。コミックに登場するのは、平成26年7月に誕生した観光PRキャラクターである4式ロボ<sup>みずき</sup>という水輝(作者は漫画家で映画監督の松浦まさふみさん)。

誕生から1年。イラストに止まらず、志木市の魅力を発信するストーリーを引っさげて市のPRをはじめた4式ロボという水輝。今後の展開をお楽しみに！

オリジナルコミック付き観光ガイドブックは、市内公共施設のほか、志木駅、柳瀬川駅、埼玉県物産観光協会施設などで配布中です。